

連載のまとめ

※PJ=プロジェクト

広報あびら5月号から「子

どもにやさしいプロジェクト」
について、考え方や学校の状
況、取り組みなどを紹介して
きました。

今月はそれらを整理して、
来年度から動き始める『地域
学校協働本部』についてお伝
えしたいと思います。

自分の人生を豊かに生きる

何かができるようになった
ときの喜びや取り組んでいる
最中のワクワクを感じることに
またその楽しみを持っている
ことは年齢に関わらず人生の
豊かさにつながると思います。
中でも遊んでいるときの楽し
さは、子どもだけでなく大人
や高齢者にとっても豊かな時
間です（5月号掲載）。

学校が限界を迎えている

子どもが思いっきり遊ぶこ
とができ、自分の考えや意見
を当たり前に言える環境がつ
くることができれば、世代を
超えてまちに賑わいが生まれ
てきます。その核となるのは
やはり、すべての子どもが集
まる学校です。しかし、学校
だけでは子どもたちは先生と
しか出会えません（6月号掲
載）。しかも学校の状況は危
機的で、多忙は限界を超え、
なり手どころか現在も町内の
学校では先生が不足していま
す（8月号掲載）。学校だけ
ではありません。スポーツと
文化も同じ状況です。少子化、
人口減少、指導者不足から、
する人やなり手が減り深刻な
状況です。

昭和から続いてきた仕組み
が限界を迎えてきているので
す（9月号掲載）。

認識と価値観を変える

では、どうするのか。いま
での学校や先生に抱いている
イメージや価値観を変えて、
新しい仕組みをつくるしかあ
りません。その時の考え方は
次のものだと思います。

- ・学校や先生じゃなくても
- ・スポーツや文化は町全体で
- ・子どもが育つのは学校だけ
じゃない

「学校にお願いしよう」「学
校で教えてもらおう」「学校
に…」ついつい何でも学校に
お願いしてしまいがちです。
もちろん地域と学校のつなが
りを考えると大切なことでは
が、もはや学校はそれらすべ
てを受けられる状態ではない
ことを認識する必要があります
（10月号掲載）。

地域で子どもを育てよう

「将来にわたって子どもの声
が地域に響き、若者・子育て
世代で賑わうまち（第2次安
平町総合計画より）」をつく
るためには、世代や年齢に関
係なく「自分の人生を豊かに
生きる」ことが大切です。安
平町としては、人生のスター
トである幼児期、そして学齢
期にそんな経験をしてほしい
と考えています。

そのためには、学校や先生
に頼るだけではなく、地域が
子どもを育てる意識と仕組み
が必要です。しかし、今まで
子どもの育ちや学びはすべて
学校に任せていたのでよくわ
かりません。ですから、地域
と学校がつながり協働するた
めの仕組みとして地域学校協
働本部を設置します。どこか
に本部の場所があるわけでは
ありません。地域学校協働活
動推進員という人を介して、
① ネットワークを構築して、
② コーディネートしながら、
③ 多様な活動をすることを地
域学校協働本部と言います。